

令和4年度 食のまちづくり推進活動補助金 採択事業実績一覧

No.	事業名	事業主体	構成人数	事業目的	事業実績内容	補助交付額
1	身近にある野草を食卓につなげよう！！	弥生で野草塾	6	野草は身近にある食材だが、奥が深く日常生活に取り入れるのは難しい。専門家から四季の野草の知識を得、調理の仕方を学び実践へとつなげる。更に、「養生」の知識を学ぶ事で日ごろの食生活を見直す場になるようにしていく。	季節の野草の採取、調理および野草の特性や効能、養生について学ぶ講座を3回開催した。毎回初めての参加者があり、年齢・性別に幅があり、たくさんの人に参加をもらえる会になった。参加者は、学んだことを生活の中に取り入れてくれるようになり、会の意義を感じた。	90,000
2	男のクッキングスクール	男のクッキングスクール	15	調理実習、他地域に学ぶ研修会および郷土料理を継承し、地域の住民との親睦を深める。また、佐伯市がすすめているオーガニックについて理解を深めていく。	月に1回、旬の食材とオーガニックを取り入れ、中華料理や沖縄料理等幅広い内容での調理実習を実施した。大越地区住民を講師に迎えた実習では、日頃の実践成果を披露し、地域住民と親睦を深めながら郷土料理の継承に取り組んだ。また、参加者の意見交換の時間を設けることで、回を重ねるごとに良い活動に繋げることができた。	110,000
3	無添加生活～からだにやさしく免疫力アップ～	弥生母親クラブワイワイサークル	26	食を通して感染症やアレルギーに負けない体を、内側から作っていく。	酵素ジュース作りをはじめとした5つの事業を実施した。強い体を内側から作るために食育事業を通して日常に取り入れられる少しの工夫を沢山学ぶことができた。講習1回きりではなく各家庭においても継続して取り組むことができている。	130,000
4	食で繋ぐ We Love SAIKIプロジェクト	大分県立佐伯豊南高等学校	125	佐伯の食の魅力を再発見！高校生の力で佐伯のチカラをUP！食で繋ぐ佐伯愛！	高校生視点からの「食のまちづくり」による地域貢献を目指し、地元食材を使った身体にやさしいスイーツと海産物を使った商品開発に取り組んだ。スイーツには、地元のさつまいもや因尾茶などを使用。さいき城山桜ホールで開催されたイベントで販売し、完売した。海産物を使用した商品は、プレゼンテーションで選出されたアイデアを商品化するため試作・検討を重ね、各所での販売を予定している。	110,000
5	小さな手でできること～自分たちで作る、口に入れるまで～	しろやま共同保育園	93	私たちの食育を深め、地域にも広める	農業体験として梅もぎ、手作り体験として梅シロップ・梅干し作り、ひじきふりかけ作り、味噌作り等の活動を実施した。親子が共に食の大切さや佐伯の豊かさについて語り合い、情報や体験を共有することができた。	100,000
6	親子で田植え手刈りの米作り体験&大豆から育てる味噌仕込み	食と子育てを楽しむ会	7	土に触れ、食に触れることで普段食べているものがどのように出来ているのか、子どもたちと一緒に学び、体験、実践していきながら選んで食べることができる人を育てていきたい。	『米』に対する日本人の心を育てるとともに、一緒に汗を流し協力することの大切さを学ぶことを目的に、田植え稲刈り体験を実施した。参加者にはSNSを活用してお米が育つ様子を配信し、反響があった。手探りで栽培に取り組んだ大豆は、予定よりも少ない収穫量となったものの、育てることの大変さ、楽しさを子どもたちと分かち合うことに繋がった。そして、活動3年目の集大成として映画「夢見る小学校」の上映会を開催した。上映後のお話会では、子育てや仕事に活かしたいという嬉しい声をいただき、横の繋がりが広がった。	130,000
7	畑活@佐伯	畑活佐伯チーム	8	田畑の共同作業により、地域のコミュニティを作っていく。無農薬・無肥料でお米や野菜を作る。	無農薬、無肥料でのお米作り、野菜作りに取り組み、延べ約195名の参加があった。毎回の共同作業を通して地域住民や参加者同士がふれあひながら活動することで人と人のつながりや人と自然が共生していくことを楽しみながら体験することができた。	110,000
8	有機米と有機大豆でオンリーワンな手前味噌を作ろう	ジロー米作り道場	4	有機米と有機大豆をみんなで育て、その米と大豆を使って世界で一つだけの手前味噌を仕込む。生産から加工までの食の流れを知り、感謝の心を養う。	有機米と有機大豆の栽培に取り組んだが、大豆の実入りがなく、味噌作りができなかった。代わりに収穫した有機米を使って麹仕込みを行った。参加者からはまた参加したいと好評の声をいただき、米作りと食べ物への感謝の心を養うという目的を達成することができた。	100,000
9	日本山人参を守る会	日本山人参を守る会	8	絶滅の恐れのある日本山人参を保護し、増やして薬草として使用する。	事業中止	0

令和4年度 食のまちづくり推進活動補助金 採択事業実績一覧

No.	事業名	事業主体	構成人数	事業目的	事業実績内容	補助交付額
10	食で鶴見盛り上げた	アソネ 海音の会	4	地元につながる食文化の継承と地元食材の活用	全9回の料理教室を通して、食への興味や作る楽しさを味わえたり、色々な人と交流を図ることができた。後半の回からは人づてに聞いた地元以外の人も参加してくれるようになり、参加者の要望を踏まえた企画は好評だった。公民館の調理室を使用することで賑わいにも貢献でき、調理環境の整備に繋がった。	150,000
11	地松浦公民館食育推進事業～食育活動で地域を元気に～	地松浦公民館	7	安全な食品をバランス良く摂取することで、私たちは健康な心身を保つことができます。今回の食育事業で健康面、自炊の大切さ、魚食普及、オーガニック野菜の推進等の大事さを次世代に伝えていく。	食育活動による地松浦地区の活性化に取り組んだ。 Instagramを活用した情報発信講座や映えるお弁当作り、腸活講座等さまざまな講座を5回実施し、77名の参加があった。参加者からは勉強になったと喜びの声が多く、満足できる取組となった。	130,000
12	「食のまち佐伯」サポート事業	食育サポート おおいた	8	市内の食育拠点「さいき城山桜ホール」のキッチンコートとセミナーコートの活動を助長・促進させるほか、市内外に「食育のまち佐伯」や「オーガニックシティー佐伯」を広く発信することで、豊かな自然の恵みへの感謝と食への愛情あふれるクリーンな地域のイメージの定着・向上をめざすことを目的とする。	「あえる」（会える・逢える・合える・和える）をキーワードに事業を実施した。 （1）佐伯市内であえる…さいき城山桜ホールキッチンコートの利用促進に向けて、夜間に『食とオーガニックの集い』を8回開催。毎回、講師による講演とオーガニック食品の試食を行い、好評を得た。 （2）佐伯市外であえる…福岡市にあるアンテナショップ「KATARU」での情報発信として、風光明媚な佐伯市各所の写真を使用したフリップパネルの展示を行い、地域イメージの向上に一役買った。 さらに「おおいたオーガニックマーケット」に参加した際には、佐伯市のオーガニックの推進状況や「さいきオーガニックマルシェ」をPRしたところ8名が大分市や別府市から足を運んでくれ、誘客に結びついたとともに今後も定期的に情報発信を行う約束を取り付けることに繋がった。	150,000

※申し込み順

(予算額)1,400,000円

(交付実績額合計)1,310,000円